授業の遠隔化は良い経験であった

佐伯　宣久（人体の構造と機能・疾病論）

教育上の課題と工夫

「人体の構造と機能」ならびに「疾病論」は、医学部教育の基礎医学（解剖学・組織学・生理学・生化学）と臨床医学（内科学・外科学・その他）にそれぞれ相当する科目である。看護学部においてこれらの科目の授業を行う上で大事なことは２つあると考える。一つは限られた授業時間の中で看護師を志す学生に提供すべき知識や概念は何かを整理することである。「人体」「疾病論」の授業はこれらの知識や概念の Introduction が主な内容となっており、学生は授業後の自己学習によりそれらを理解し記憶することが期待される。

もう一つの大事なことは紹介する知識や概念をわかりやすく解説することである。基本的な事項に絞ってはいるものの「人体」「疾病論」の情報量は多い。理解困難な情報を大量に浴びせられては、自信喪失と科目に対する拒否感情につながってしまうことはあきらかである。私の授業の全科目に共通する裏テーマは“人体や疾患について学ぶことは楽しい”と学生に感じていただくことである。どの職業にも言えることではあるが、大学で学べることは基本的かつ限定的なことであり、卒業後の勉強はより重要である。学生には“生理学”や“疾患”について負の感情を持つことなく向き合えば何とかなると感じてほしい。

わかりやすい授業を設計するにあたり現在はよい教科書が多数ある。私が学生のころは教科書と言えばやたら文字ばかりが並んでいたものだが、現在はイラストや写真が豊富な教科書が主流である。これらにある図や写真を使ってわかりやすいスライドを作成している。学会などで字が小さく見づらいスライドを出され聴く気が失せることがたびたびある。そのようなことがないよう、原則として１スライド１テーマ、大きな絵と大きな字のスライド作成を心がけている。そのため、１回の授業では 100-120 枚のスライドを準備することとなる。

以上のような授業デザインとなっている「人体」「疾病論」については、授業の遠隔化を迫られたことで特に負の影響はなく、むしろ授業のあり方に発見をもたらしたと考えている。たとえば、授業は毎回録画を撮り授業後に受講生が視聴できるようにした。これについては好評だったと聞いている。リラックスできる環境でくり返し視聴できるし、途中で pause を入れながらじっくり受講できるからであろう。

With コロナに向けて

令和２・３年度は授業時間を設定してのオンライン参加の授業を実施した。次年度は授業を録画してオンデマンドで視聴する授業を行う予定である。授業の時間や場所を設定しないことは教員と受講生の双方にメリットがある。自分の生活スタイルなどに合わせて時間の使い方を工夫できるからである。私としては研究時間の捻出に繋げたいと考えている。また、昨今の大学教育に求められている学生のアクティブラーニングの要素を取り入れた授業にも繋がるものである。なかなか勉強に手が付けられない学生も出てくることと思うが、進捗管理を工夫してオンデマンドでの効果的な授業を提供したい。